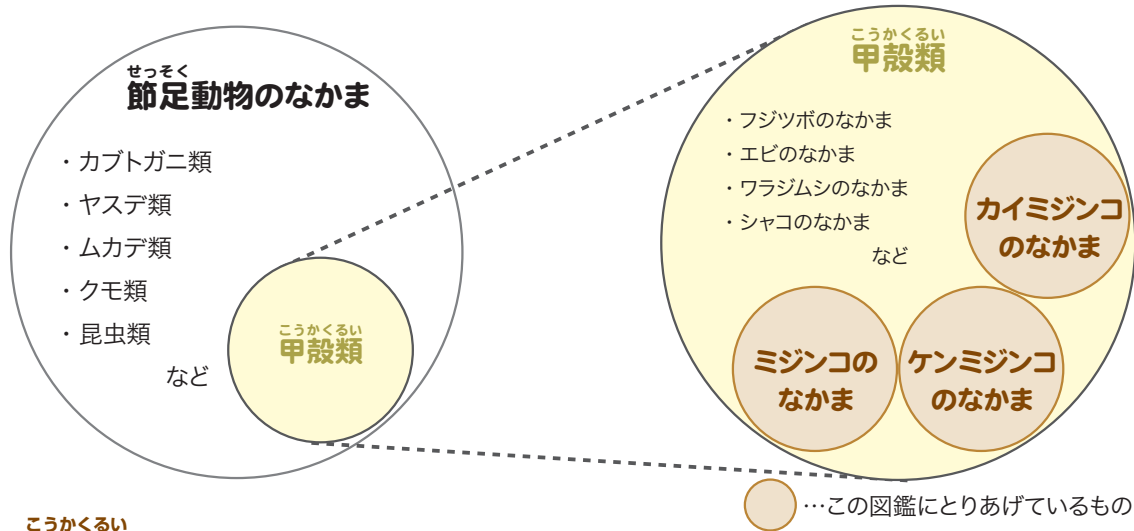


## 節足動物のなかま

節足動物とは、カブトムシやエビなどのようにいくつかの節になった足をもつ生き物です。図のように甲殻類も節足動物のなかまで、ミジンコのなかまも甲殻類に分類されています。小さなミジンコもクモやムカデ、昆虫なども含む大きな生き物のなかまなのです。現在知られている生物種の多くが、この節足動物に属しています。



## 甲殻類の説明

甲殻類の中にはフジツボのように海の岩の表面に付着して生活するもの、エビやカニのように主に水の底を移動しながら生活するもの、そして、この図鑑にとり上げたなかまのようにプランクトン生活(水中にただよって生活する)を送るものなど、さまざまなタイプのなかまがあります。一見、形も生活スタイルも大きくちがう甲殻類ですが、共通点の1つが、卵から孵化すると最初にノープリウスという幼生になるということと、その後脱皮を繰り返しながら形を変えていくことです。

ミジンコは通常、母親の体内で幼生期を過ごします。ミジンコのなかまは、腕のような大きな第2触角をもち、ノープリウスの時期の特徴をそのまま残しています。一方、ケンミジンコのなかまは、ノープリウスからつぎの段階に成長する間に第1触角の方が第2触角よりも長くなっていきます。成長してからの形が大きくちがっている生き物同士でも、幼生のときの形を調べることでたがいの関係を理解することができます。

## 卵と幼生の比較

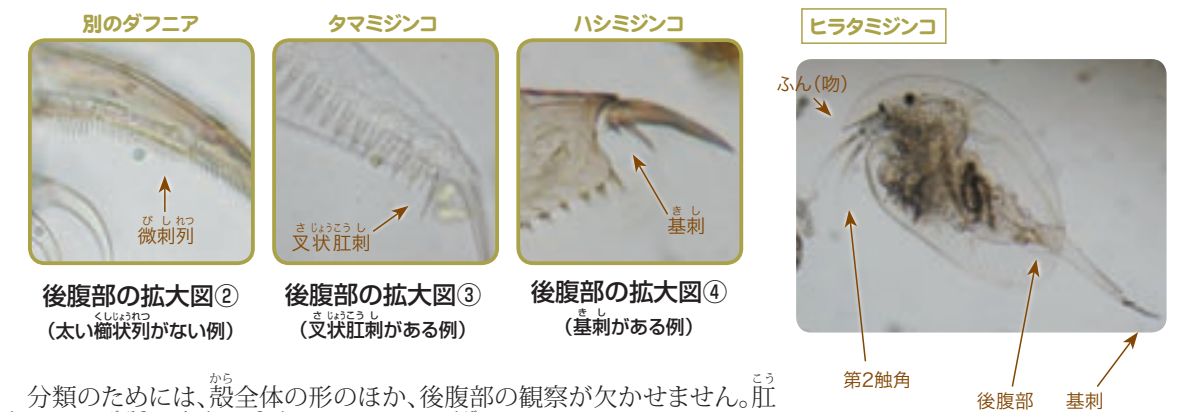
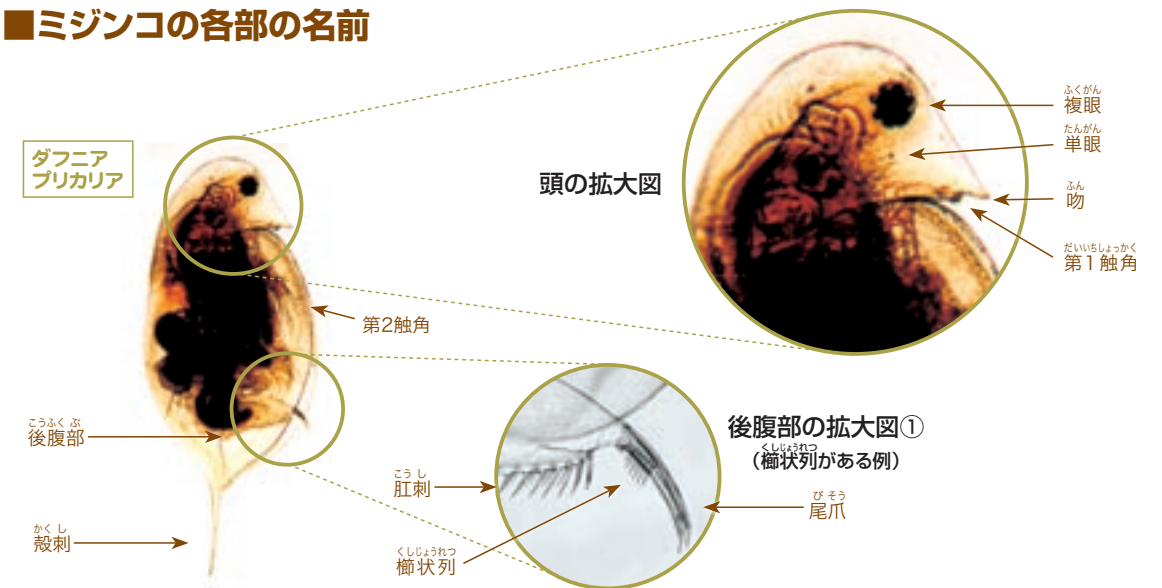
ミジンコのなかま	<p>卵は、メスの背中で育つので、ノープリウスの段階をハッキリと見ることは困難</p>	<p>第2触角</p>
ケンミジンコのなかま	<p>卵は、メスの体から離れて育つので、ノープリウスの段階をハッキリと観察できる</p>	<p>第1触角</p>

# 1 ミジンコのなかま

(ミジンコ亜綱: BRANCHIOPODA)

ミジンコの名前は微塵(たいへん細かいこと)という意味からきています。このなかまは甲殻類に属し、エビやカニなどと同じなかまです。腕のように伸びた長い触角(第2触角)を使って、ピョンピョンと泳いでいます。プランクトンの中でも目に見えるものもあり、よく知られているプランクトンです。

## ミジンコの各部の名前



分類のためには、殻全体の形のほか、後腹部の観察が欠かせません。肛刺の数や尾爪の基刺の有無のほか、どんな刺がどのように生えているのかを観察しないと、正確に種を特定できません。

## 増え方

ミジンコは、ふつうメスだけで卵をつくる単為生殖という方法で増えていきます。単為生殖でつくった卵(単性卵)を背中側に抱えて孵化させます。卵が外にこぼれないように後腹部には出っぱり(腹突)があります。

このほか、環境が悪くなるとオスが生まれ、受精卵をつくります。受精卵はそれぞれ特徴的な形をした鞘に入っていて耐久(休眠)卵と呼ばれています。この耐久卵は生育に適した季節(環境)になるまで眠っています。そして、条件がそろえば卵が孵化します。